塗料報知
発行所　塗料報知新聞社
編集印刷発行人　有馬得之
本社　電話(03)3260-6111
東京都新宿区矢来町3番地
FAX (03)3260－6116
振替口座　00170-5-196510番
際立つ付加価値を
"媒体"と"事業"で提供
est. in 1946
購読料1か年（消費税込み）30,800円
URL https://www.e-toryo.co.jp
日本専門新聞協会加盟紙
©塗料報知新聞社 2024

日本ペイント

建築用リニューアル発売

次世代フッ素樹脂塗料第三弾

実績写真
施工前
施工後

クラウディ工法施工前後の比較画像

日本ペイントは7月23日、建築用分野においてターペン可溶フッ素樹脂トタン屋根用塗料「デュフロンDFルーフ」、ターペン可溶1液反応硬化形フッ素樹脂系屋根用塗料「1液ファインDFルーフ」、打ち放しコンクリート面仕上げ水性フッ素樹脂系上塗りクリヤー塗料「水性DFプーレクリヤー」の3製品について、リニューアル発売を開始した。

DFシリーズリニューアルの背景には弱溶剤4F樹脂の廃止およびその他原料の供給事情があるが、同社が長年培ったフッ素樹脂塗料開発に基づく設計技術により、4F同等以上の耐久性を発揮する製品リニューアルを実現した。今回の3製品は、4フッ化フッ素セラミック変性樹脂塗料4Fシリーズのリニューアルに伴い、新たに拡充する次世代フッ素樹脂塗料シリーズ「DFシリーズ」の第三弾となる。

ターペン可溶フッ素樹脂トタン屋根用塗料「デュフロンDFルーフ」（現行品：デュフロン4Fルーフ）は、2液形の弱溶剤系で耐候性や耐水性に優れた強靭な塗膜を形成するとともに、密着性にも優れるため、塗りたての美しさ（初期光沢）を長期間保つ。また、寒冷地での高い滑雪性を発揮するとともに、滑雪時に発生する傷や剥がれから強力にガードする。耐候性をはじめとした基本性能は4Fシリーズ同等以上である。

ターペン可溶1液反応硬化形フッ素樹脂系屋根用塗料「1液ファインDFルーフ」（現行品：1液ファイン4Fルーフ）は、1液形の弱溶剤系で耐候性や耐水性に優れた強靭な塗膜を形成するとともに、密着性・滑雪性にも優れる。耐候性をはじめとした基本性能は4Fシリーズ同等以上である。

打ち放しコンクリート面仕上げ 水性フッ素樹脂系上塗りクリヤー塗料「水性DFプーレクリヤー」（現行品：水性4Fプーレクリヤー）は、打ち放しコンクリート面生地仕上げ工法である「水性DFプーレシステム工法」および打ち放しコンクリート面着色仕上げ工法「CLOUDYクラウディ工法」での水性上塗りクリヤー塗料である。耐候性をはじめとした基本性能およびつやのラインアップは現行品と同等である。

なお、これら3製品の発売に伴い、現行品は在庫が無くなり次第廃止となる。

℡03・3740・1488

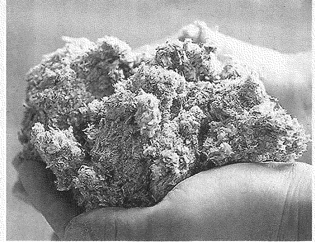
デコス

環境対応の断熱材

CO2排出量を公開

デコス（山口・安成信次社長）は、同社が製造・販売・施工を手掛けるセルローズファイバー断熱材「デコスファイバー」が、サステナブル経営推進機構（SuMPO）が管理運営するSuMPO環境ラベルプログラムにより、エコリーフ認定を2019年と同数値にて更新と発表した。

エコリーフとは、商品・サービスの原材料調達から廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通した環境負荷を定量的に開示、公開している環境ラベルである。建築業界において、建築時のCO_2排出量の見える化のニーズが高まるなか、「デコスファイバー」は国内の建築用断熱材で唯一、CO_2排出量を公開しているという。2011年には建築用断熱材として日本で初めてCO_2排出量を計算し、CFP（カーボンフットプリント）宣言の認定を取得。2014年には、前回認定時からさらに約16％削減して更新した。木造住宅で一般的に広く国内で用いられる断熱材と比較した場合、同製品を使用することで、建設時の断熱材のCO_2排出量を約56％削減できるという。



セルロースファイバー断熱材「デコスファイバー」

同製品は、新聞紙を主原料とする綿状の木質繊維系断熱材。綿状にすり潰した新聞紙にホウ酸・ホウ砂、撥水材を加えて混合して製造され、断熱性だけでなく、調湿性・吸音性・防火性などにも優れていることが特長である。製造過程では、石油燃料を使用せず、電気エネルギーのみを用い、さらに熱（溶解・乾燥）、水（洗浄・冷却）なども一切使用しない。このため、他の断熱材に比べ製造時のエネルギー消費量が圧倒的に低いエコでクリーンな断熱材である。

また、製造段階で排出される廃棄物も100％リサイクル活用。リサイクルが困難な廃棄物は石炭の代替となる固形燃料であるRPF（Refuse derived paper and plastics densified Fuel）として、セメント工場で再利用している。さらに、工場から全国への発送にはトラック輸送によるCO_2排出量を抑えるため、JR貨物を利用するモーダルシフトを採用している。

環境対応の断熱材として他社に先駆けたデコスは、

ファイ
いた
を建
れて
は、

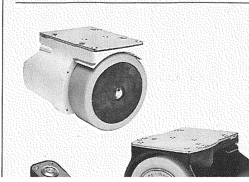
ＩＤＥＣ

重量物運搬

使用台

IDEC（大阪・船木俊之会長兼社長）は、工場や倉庫において重量物を台車に乗せ人力によって搬送する作業を改善し、作業者の負担を軽減するために、台車の電動アシスト化を実現する「Assist Wheel Drive」を販売している。

同
体と
から
構造
成で
ト化
0kg
0）、
A-
可能



大伸化学株式会社
http://www.daishin-chemical.co.jp

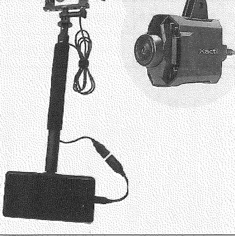
ザクティとリオール

建設現場向け検査キット

床下天井裏を安全確実点検

建設DXソリューションの提供を行うザクティ（大阪・喜久川政樹社長）は6月13日、リオール（東京・原翔平社長）と建設現場向け「建築用 床下天井裏 検査キット」で連携を開始した。

「建築用 床下天井裏 検査キット」は、ザクティが培った映像技術を活かし、リオールが長年のサービス提供を通じて蓄積した現場の声に応えるDXパッケージ。作業員の身体的な負担を軽減し、業務効率化を実現する。同検査キットでは、今まで屈みこまないと覗くことができなかった床下や、脚立に立ちながら不安定な姿勢で確認していた天井裏を、安全で確実に点検できる。現場での難しいセットアップは不要で、誰でも簡単に利用でき、必要に応じて遠隔通信を行いながら検査を実施することができる。



建築用 床下天井裏 検査キット

同検査キットでは、伸縮する専用アタッチメントを利用し、最大4600ルーメンのライトで照らしながら天井裏を覗いたり、床下を検査したりすることが可能。専用スマートフォンで録画や遠隔地との通信も可能で、容易に情報共有が図れる。角度調整も自由な手元のスマートフォンは拡大表示も可能で、細かい項目も見逃さない。

アルミ合金のアタッチメントは多段階拡張が可能で最大121㎝伸縮するため、天井裏だけでなくさまざまな箇所の確認を行える。カメラ部分に搭載された水平維持機能により、検査のためにカメラを回転してもモニター画像は目線と同じ水平を維持する。

また、スマートフォンは マグネット装着なので取り外しのストレスを軽減。現場で必要なものが全て収納でき、保管・移送に最適な樹脂製のプロテクターツールケースが付属している。

検査従事者の体力消耗を軽減できるので、検査数を増やしたり、録音・録画もでき、スマホを介してコントロールできるので、離れた場所でパソコン観察も可能と、狭隘部検査の効率化が期待される。

問合せ：ザクティ・ソリューション営業統括部（https://genbadx.jp/service/test-kit/）

5月業況観測アンケート

出荷数量・金額

日本塗料工業会（若月雄一郎会長）は2024年5月の業況観測アンケート（日塗工会員33社集計、前年同月比）の結果を発表した。

前年同月比指数計算値は販売数量が102・0

%と
額も
が続
需

水谷ペイント

塗料価格を値下げ

NADポリマSi

水谷ペイントは7月29日、1液型屋根用汎用塗料「NADポリマSi」の価格を大幅に引き下げることを決定した。

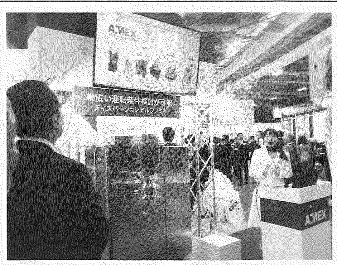
NADポリマSiは、優れた性能とコストパフォーマンスにより、多くのユーザーから高い評価を得ている製品。1回塗りで美しく仕上がるため、作業工程が少なく工賃を大幅に削減できる。また、固形分が多いので塗料の使用量も削減できるなどの特長がある。

今回の価格改定は、物価

高騰
組み
ザー
う、塗
すい
同
みは
力の
ので
はな
新
日か

アイメックス

展示会でリード獲得見える化



5月のコーティングジャパン大阪展（塗料・塗装設備展）に出展したアイメックス

アイメックス（五十嵐康雄社長）は、1950年に前身の五十嵐製作所として創業し、74年の歴史を誇る。

ビーズミルメーカーとして化学分野の湿式粉砕処理業界や、プラスチック押出成形業界にも独自の製品を投入し両業界の発展と技術の向上に貢献してきた。

また、基本方針を的確に貫くための姿勢と精神を「Techno-Frontier Spirits」と表明し、積極的かつ果敢に未知の分野へ挑戦し続けている。

同社は以前から展示会への出展に注力しており、毎年3～4つの展示会に出展している。

今年5月に開催された高機能素材Week大阪展では塗料・塗装設備展に出展。湿式超微粒粉砕・分散装置のビーズミルを紹介した。粉体をナノレベルまで細かくする機械で、液体で濡らした粉体をビーズミル内でビーズと共に攪拌することで粉砕・解砕・分散することができる。

展示の目玉は、昨年末にリリースしたという「ディスパージョンアルファミル（DAM）」。低周速から高周速運転まで可能なため、ソフト分散から粉砕処理まで行うことができるという特長を持つ。さらに、ブース内では3日間セミナーを開き、同製品の紹介、3本ロールの自動隙間調整、小型ビーズミルの活用方法、ナノ分散を実現するビーズミルをアピールし、来場者を誘導した。

担当者は「展示会に継続して出展することで、出展の意義が見い出せてきた。さらに営業支援システムを導入したことにより、展示会がリード獲得の場に繋がっていることも見える化している」と話す。

同社は、10月29日から3日間開催される高機能素材Week東京展では、セラミック展に出展する予定だ。

第77回新聞週間　第31回日本専門新聞写真コンクール

主　催：公益社団法人　日本専門新聞協会
後　援：文化庁

1.応募規定
(1)資格　アマチュア写真愛好家および協会加盟社社員・読者・一般応募
(2)題材　自由